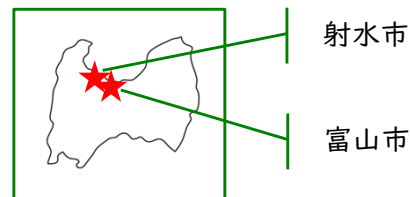


背景・課題

当該地域は、富山県を代表する大型選果場を中心とした大規模日本なし産地である。近年、暖冬による発芽不良障害や開花期の凍霜害による結実不良から出荷量が著しく減少するなど、激しい気候変動が生産に大きく影響を及ぼしており、安定生産技術の早期確立・普及が強く求められている。



構成員

JAなのはな呉羽梨選果場、県富山・高岡農林振興センター、富山市、射水市、JAなのはな

品目

日本なし

栽培マニュアル・産地戦略

富山県／グリーンな栽培体系への転換に向けた取組について



<https://www.pref.toyama.jp/1612/sangyou/nourinsuisan/nougyou/guri-nnasaibaitaikei.html>

成果目標と達成状況

○呉羽梨産地における窒素肥料の使用量低減マニュアルおよび産地戦略（R4～R9年度）を策定

取組の成果

現地ほ場において実証及び導入効果を検証した結果、

- ①基肥施用時期を秋冬から春季に変更することによる化学肥料の使用量低減
- ②園地の気温をクラウドで確認することによる防霜対策の作業時間の削減の効果が確認された。

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
取組時期		受粉	摘果		新梢管理		収穫					

①春季の基肥施用



- 窒素肥料の使用量低減マニュアル
- 基肥施用時期を秋冬から春へ変更することで、窒素肥料の使用量を低減

② ICT気温モニタリング装置の活用による防霜対策



- 温度センサーによる棚面温度のモニタリング



- 温度データは受信機を介してクラウドへ
⇒各生産者が携帯電話やPCで確認可能

普及に向けた取組

- ・マニュアルによる情報発信と現地研修会等を開催し、普及を図る。
- ・窒素肥料の使用量の低減による中長期的な樹体生育、生産への影響を確認する。